

ニホンリス *Sciurus lis* Temminck

【選定理由】

日本固有種で、分布が確実なのは本州と四国のみで、九州と淡路島では最近の記録がなく (Tamura, 2015)、絶滅した可能性が高い。愛知県内では渥美半島での生息記録がなく、知多半島では常滑市と知多市で「時に出没することあり」とされていたにすぎない (宮尾ほか, 1984)。市街化や開発等によって生息環境が分断され、個体群が維持される条件への脅威が増大していると考えられる。

【形態】

体重 250~310g、頭胴長 160~220mm、尾長 130~170mm、後足長 48~58mm、耳介長 22~31mm、頭骨最大長 46.3~55.5mm。エゾリスよりもやや小型。背面は夏毛では赤褐色、冬毛では灰褐色で、腹面は純白。尾の先が白く、冬毛では耳の先にふさ毛が生じる。歯式は I1/1, C0/0, P2/1, M3/3=22。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山市、春日井市、名古屋市 (守山区東谷山・森林公園・小幡緑地・八竜緑地)、瀬戸市、尾張旭市 (森林公園)、知多市、常滑市、豊田市、みよし市、岡崎市、設楽町、豊根村、東栄町、新城市、豊川市、蒲郡市 (絶滅?)、田原市 (宮尾ほか, 1984; 大羽, 2005; 子安・小鹿, 2014; 名和, 2015; 子安ほか, 2016; 春日井市, 2016)。

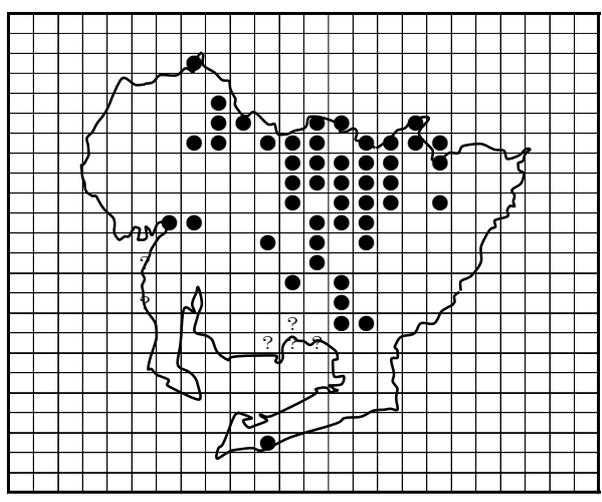
【国内の分布】

本州、四国。九州と淡路島では近年の確実な記録がない (Tamura, 2015)。

【世界の分布】

日本固有種 (Tamura, 2015)。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

平野部から山地にかけての森林がニホンリスの生息地であり、ドングリ、クルミ、マツなどの種子をよく食べるが、花、芽、果実、キノコ類、昆虫なども食べる (宮尾ほか, 1984 など)。

【現在の生息状況／減少の要因】

1984年に発行された「愛知の動物」(宮尾ほか, 1984)ではムササビやヒメネズミとともに「狭域分布種」と位置づけられていた。減少の要因として、市街化や開発等による生息環境の分断や生息環境の劣化が考えられる。

【保全上の留意点】

ニホンリスの個体群が安定して維持されるために連続した森林が開発等により分断されることを避けるとともに、植生の復元等によって孤立した個体群の連続性を回復する必要がある。

【特記事項】

知多市と常滑市では1980年に2頭の捕獲記録があるのみ (宮尾ほか, 1984)であり、絶滅した可能性もある。蒲郡市での分布は1974年の「蒲郡市史」に基づいた宮尾ほか (1984)によるが、その後の記録は明瞭でなく絶滅の可能性もある。環境省のレッドリストでは「中国地方」と「九州地方」の個体群が「絶滅のおそれのある地域個体群」に指定されている (押田, 2014)。化石は山口県の中期更新世、本州中南部と四国の後期更新世、本州中部の完新世から出土している (Tamura, 2015)。

【引用文献】

春日井市, 2016. かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議事業報告書平成27年度, 8 pp. 愛知県春日井市, 春日井.
子安和弘・小鹿登美, 2014. ニホンリス *Sciurus lis* Temminck. レッドデータブックおかげさき 2014, p.172. 岡崎市, 愛知県岡崎市.
子安和弘・岡田慶範・小鹿登美・吉村文孝, 2016. 哺乳類. 豊田市生物調査報告書<分冊その3>, pp.337-367. 豊田市, 豊田.
宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
名和 明, 2015. ニホンリス. レッドデータブックなごや 2015 動物編, p.37. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋.
押田龍夫, 2014. 中国地方のニホンリス・九州地方のニホンリス. Red Data Book 2014, 1 哺乳類, pp.106-109. ぎょうせい, 東京.
大羽康利, 2005. 渥美半島「越戸(おっと) 大山へりコブター離着陸訓練場」問題について. しろちどり, (46): 20-21.
Tamura, N. 2015. *Sciurus lis* Temminck, 1844. The wild mammals of Japan, 2nd ed., pp.192-195. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.

(子安和弘)